

今後の大震災に対する備え

東京都水道局 浄水部長(特命担当部長兼務)
橋本 英樹



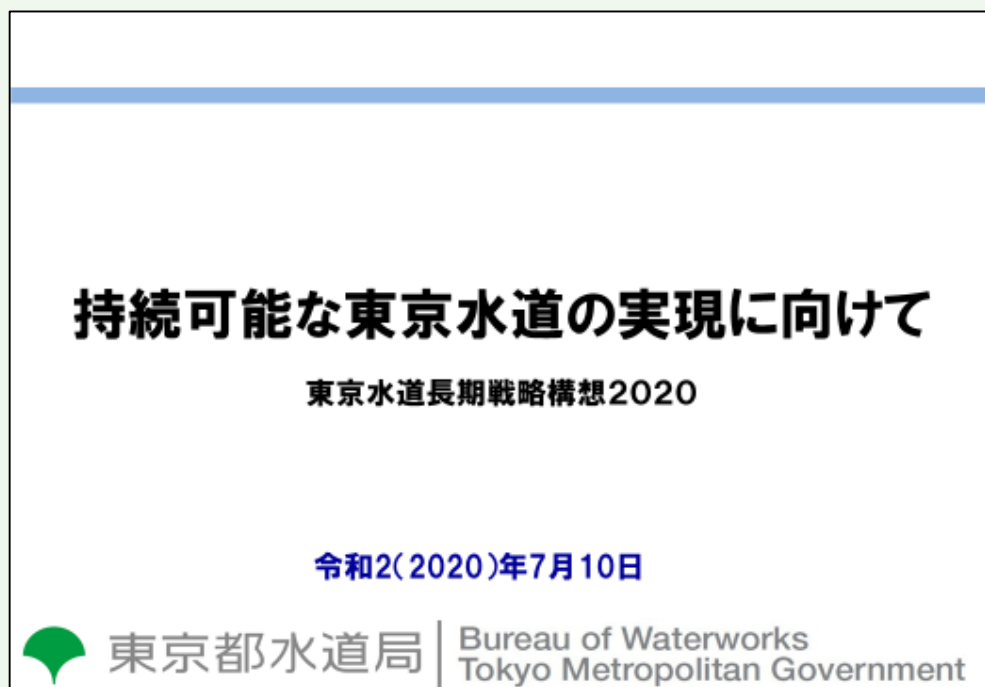
施設整備に係る主な長期計画について

持続可能な東京水道の実現に向けて

『東京水道長期戦略構想2020』

(令和2年7月策定)

2040年までの概ね20年間の事業運営方針



具体化

『東京水道施設整備マスタープラン』

(令和3年3月策定)

R3(2021)年からR12(2030)年

までの10年間の施設整備計画



今後の大震災に対する備え

- 水道は、都民生活と首都東京の都市活動を支える**基幹ライフライン**
- 大規模災害時も、被害を最小限にとどめ、**可能な限り給水を確保**することが必要
- これまでも、過去の大規模災害を教訓に、**管路の耐震継手化**や**浄水場等の浸水対策**、**応急給水拠点の整備**や災害時を想定した訓練などを実施
- 一方で、首都直下地震や局地的な豪雨の増加など、**様々な自然災害の脅威**に直面
- 被害想定や給水への影響を踏まえ、大規模地震や風水害、火山噴火への対策に積極的に取り組み、**水道施設を強靱化**
- さらに、**受援体制を着実に機能**させる取組や、**災害発生初期の応急給水体制を強化**する取組を実施

今後も、必要な施設整備を着実に推進し、**強靱で持続可能な水道システムを構築**するなど、**給水安定性を一層向上**させていく